第　3　章

委員会の活動概要

The Fasteners Cooperative association of Kansai

人材確保推進事業

活動方針	人材の採用・教育・定着・戦略化を進める為の課題に取り組む
事業内容	人事制度、教育訓練、募集採用、育成定着、職場環境の５テーマに沿った研究会、講習会、講演会などの事業を実施
委員長沿革	平成１５～１７年　北井　啓之

背景と経緯

関西ねじ協同組合が創立された平成１４年頃、産業界は中国から波及する価格競争が激しさを増していた時期でり、業界全体が過当な価格競争から脱却するために高付加価値の商品開および製造のできる企業へと変化が求められていた。

このような中、平成１５年５月の総会において「人材確保推進事業」に取り組むことが決議され、同年７月末、当組合が助成金対象組合としての内定通知を受け、翌８月に当該事業に関する事業項目・実施体制・予算などの諸事項が理事会にて詳細決議された。

概要

「人材確保推進事業」とは、「中小企業における労働力の確保及び良好な雇用機会の創出のための管理改善の促進に関する法律」に基づき、中小企業が労働時間の短縮、職場環境の改善、福利厚生の充実、募集方法の改善、教育訓練の充実など、雇用管理全般の改善を図り職場の魅力を高めようとする取り組みを行う場合に国や都道府県が援助するという仕組みにそったものである。

この事業に取り組むにあたり、従来の「経営革新委員会」を発展解消させ、北井啓之氏を委員長とする「人材確保推進検討委員会」設置した。さらにその下に下記５つのテーマに沿った委員会を組織し事業に取り組んだ。この事業は平成１５年度から３年におよび、最終年には全６６ページから成る報告書を作成し事業を締めくくった。

委員会	委員長	テーマ	内容
第一委員会	松元　収	人事制度	企業の活性化や若者の意欲を向上させる新しい人事制度の研究
第二委員会	夏原　和哉	教育訓練	IT をビジネスに取り組むことを中心とした教育訓練の実施
第三委員会	箕村　理	募集採用	各組合員共同で新卒募集の機会を提供し、かつ各企業の魅力を PR するための研究
第四委員会	平田　政弘	育成定着	従業員の早期育成・定着のためのモチベーションを高める手法の研究
第五委員会	矢野　佳彦	職場環境	雇用環境の継続的な改善の研究

活動内容：第一委員会

バブルとともに終身雇用制度が崩壊し新しい人事制度を社会全体が模索していた中、中小零細が多数を占める組合企業にとって最適な人事制度（評価制度）とは何かを研究会として合計２５名の委員が３年をかけて議論した。最終年度には「ねじ業界企業における人事制度整備の方向性」と題した５０ページの報告書を作成・配布した。

活動内容：第二委員会

パソコンの基本、Excel、ホームページなど IT 分野の講習会を行った。加えて、社員ひとりひとりの生産性向上を目指し、若手社員・中堅社員・女性社員・管理職などの職責ごとのセミナーを実施。講習会・セミナーは３年間で合計１１回にのぼる。

活動内容：第三委員会

各企業の大卒採用を支援するために、学生に対するプレゼンテーション手法を研究し、それに基づいた研修会の実施や民間リクルートが運営する合同説明会へ参加し実際の採用活動にも取り組んだ。最終年には大阪産業創造館でねじ企業８社による合同企業説明会を行い学生採用の成果を残した。

活動内容：第四委員会

従業員のモチベーション（働く意欲）に関する知見を高めるために、「心」をテーマにし３年間で３回の講演会を開催した。また、最終年にはコーチング技法に関する研究会を実施した。

活動内容：第五委員会

生産工場を含める職場環境の改善は業界にとって重要な課題であり、第五委員会では５Ｓ活動・ＱＣ活動をテーマとする工場見学会や研究会を行った。また、最終年にはＴＷＩ（管理監督者訓練）の仕事の教え方コースの研修会にも取り組んだ。

研究開発委員会

活動方針	時代の流れに沿った先端技術の研究や情報収集を行い、業界全体のレベルアップを目指す	
事業内容	・屋内加速試験の実施とデータ収集 ・屋外暴露試験の実施とデータ収集 ・活動成果報告書の作成と配布	
委員長沿革	創立～	豊田　正喜
	平成１８年度～	藤原　廣二
	平成２２年度～	大場　康弘

背景および経緯

研究開発委員会は発足当初「表面処理」「環境問題」「難加工材」の３グループでスタートした。しかし後に各グループの活動状況を考慮し「表面処理」のみに研究テーマを絞り込み現在に至っている。

研究開発委員会が立ち上げられた頃、建設メーカーが住宅や工場での万一の不具合に対して１０・２０年保証を行うことに伴ってねじメーカーにも同様の保証を要求するようになった。しかし、ねじの腐食に関して実環境での暴露試験データが無いことや腐食寿命予測の手法が無くこの保証への対応が課題とされていた。（一般的な塩水噴霧試験は実暴露試験との相関性が低いため耐用年数の予測は困難）このような時代背景により研究開発委員会の「表面処理」グループで「ねじの腐食寿命予測と試験方法」の研究がスタートした。

活動内容

委員会では初めに８種類のねじを選定、試験片を作成し、次の２つを柱とし研究を行った。

・屋外暴露試験（国内５箇所・国外１箇所）による実曝露データの収集
・種々の屋内加速試験を行い屋内加速試験と相関性の高い試験条件を研究

平成１８年から４年間、大阪府地場産業総合活性化補助事業を活用できたことは、コストの高い屋内加速試験を継続的に行う大きな支えとなった。また、毎年「ねじの腐食寿命予測と試験方法の検討」と題する活動成果報告書を作成・配布し研究成果を広報している。　報告書は現在Ⅰ～Ⅵを発刊。

なお、大阪府産業技術総合研究所 OB 佐藤幸弘氏が活動当初から同研究の支援を頂いた。

８種類の試験片

種類	ドリルねじ		六角ボルト
材質	SWCH18A	SUS410	SWCH10R
表面処理	A. ユニクロ 5μm	D. パシベート１	F. ３価クロメート 5μm
	B. ユニクロ 12μm	E. パシベート２	G. ユニクロ 5μm
	C. ユニクロ 20μm		H. 溶融亜鉛 20μm

屋外暴露試験設置場所

場所	環境	内容
御前崎	沿岸部	日本塗料検査協会屋外暴露試験場
名古屋１	都市部重工業地帯	名古屋市環境科学研究所
名古屋２	都市部重工業地帯	大同特殊鋼技術研究所
大阪１	都市部	大阪府環境農林水産総合研究所
大阪２	都市部	組合入居ビル屋上
重慶	内陸部重工業地帯	中国重慶市環境科学研究所

特許登録

御前崎での屋外暴露試験は、沿岸部という過酷な環境条件のため試験開始から１６ヶ月で全ての試験片に赤錆が発生した。この結果と相関性の高い屋内加速試験条件を見つけ、平成１７年に特許申請し、平成２２年３月には特許登録された。

項目	説明		
発明の名称	金属腐食の加速試験方法及びその方法による腐食寿命予測		
特許権者	関西ねじ協同組合	登録番号	特許第 4471897 号
出願	平成 17 年 7 月 21 日	登録	平成 22 年 3 月 12 日

FCK 法とは何か？

FCK 法とは特許登録した屋内加速試験条件を指す。FCK 法の試験で 60 日間赤錆発生が無かった場合、都市地帯で約 20 年、海岸地帯で約 4 年、赤錆が発生しない腐食寿命を下記計算式で予測できる。

FCK 法と腐食寿命予測の計算式

計算式	Y:屋外暴露における赤錆発生時間（月）　X:FCK 法試験時間（日） 都市部:Y=4.36X　海岸部 Y=0.77X
試験溶液	0.5wt%NaCl+0.1wt%$CaCl_2$ に 0.0001N(H_2SO_4)を添加し pH4 に調合
噴霧条件	50℃で噴霧 16hr + 乾燥 8hr を 1 サイクルとする

資格制度委員会

活動方針	ねじ業界の技能検定制度構築を目指す活動の実施
事業内容	・技能検定テキスト（ねじハンドブック）の制作
委員長沿革	平成２０年度～　　北尾　八三一［研究会］ 平成２１年度～　　北尾　八三一［委員会］

経緯

ねじ業界において技能検定制度が画一されていないことは業界の内存問題として大きな課題であり、平成 19 年から人材開発委員会の事業の一部としてこの課題について研究・調査が始まった。その後、平成 20 年度に箕村理氏を理事長とする新体制が発足し、同研究を資格制度研究会として特化し、更に翌年には委員会として昇格し活動の展開を図った。

活動内容

委員会は、ねじメーカーだけでなく関連企業も含めた 23 名で組織された。活動の第一歩は、担当官庁の担当者を訪問し、技能検定制度そのものについて知識と理解を深めることでり、その後、技能検定制度学科試験の土台となるテキスト作成を開始した。

会議では、テキストで扱う範囲・レベルの深さ・扱い方などに関して真剣な議論が数ヶ月間にも続き行われ、誤字脱字の修正・文調の統一・引用文献に関する著作権の調整にいたるまで、気の遠くなるような膨大な作業を、北尾委員長を始めとする各委員が精力的に取り組み、テキストの完成へと近づけた。　遂に平成２２年度、六角ボルトと六角ナットに範囲を絞った第一版テキストを完成させ、このテキスト作成においては平成２１年度全国中小企業活路開拓・実現化事業の対象となり活動を大きく前進させる力となった。

その後、国家技能検定の対象とするために全国規模の実績が求められることから、(社)日本ねじ工業協会が活動を引き継いだ。また、テキストの版権も譲渡した。平成２３年度には「六角ボルト・六角ナット」を対象とした学科試験・実技試験が大阪・名古屋・東京で行われ、１２名の協会認定合格者を出すに至った。

技能検定用テキスト案　目次

I.　基礎編
- 1.　全体
- 2.　ねじの基礎知識
- 3.　材料
- 4.　機械要素
- 5.　機械製図
- 6.　品質保証･管理
- 7.　検査試験
- 8.　電気
- 9.　潤滑油･圧造油
- 10.　油圧･空気圧
- 11.　熱処理
- 12.　表面処理
- 13.　安全衛生

II.　製造編
- 1.　六角ボルト
- 2.　ボルト生産主要加工設備
- 3.　ボルト工程設計
- 4.　ボルト生産機械保守･点検
- 5.　ナット

総務委員会

活動方針	総会、新年会、理事会を統括し、組合運営の円滑な推進に貢献する	
事業内容	・定期的な理事会の開催 ・新年互礼会の開催 ・総会の開催	
委員長沿革	創立～	勝亦　良彰
	平成１８年度	箕村　　理
	平成２０年度	池田　裕之

総務委員会は新年会・総会・理事会の運営や設営が主な事業である。年に７回ほど行われる理事会では各委員会の予算や事業の進捗状況が報告され円滑な組合運営を支えている。また、時に応じた業界全体の懸案事項も理事会で審議し業界の発展・活性化へ貢献している。総会では総会議事だけでなく講演会や組合事業報告会、懇親会を兼ねた有意義な集まりで多くの構成企業が出席している。また、新春互礼会は在阪ねじ商社団体の大阪鋲螺卸商協同組合と合同開催を平成１５年より隔年で行なっており、メーカー・商社の役員・従業員３００名近くが一堂に会する貴重な情報交換・親睦交流の機会となっている。

総会
総務
理事会
新年会

海外情報委員会

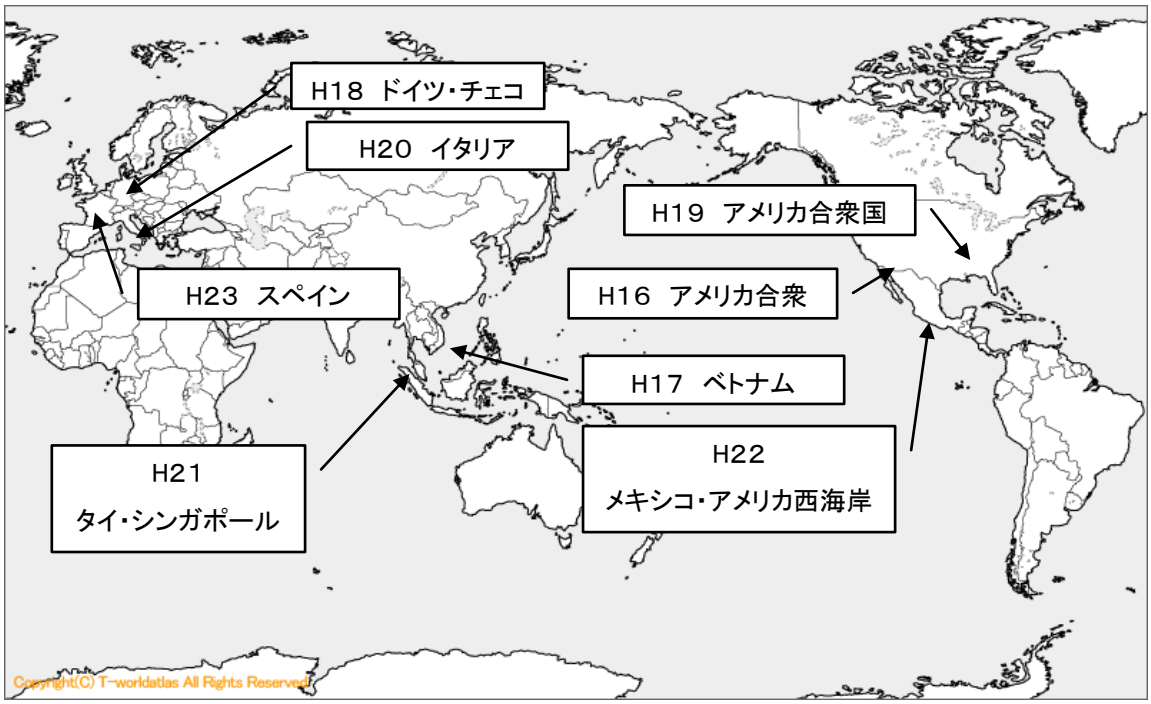
活動方針	海外の産業動向を研究する年一回の海外研修を行う	
事業内容	・海外視察の実施	
委員長沿革	創立～	池田　裕之
	平成１８年度～	西　　泰宏
	平成２４年度～	柳原　考至

海外情報委員会は年に一度 海外視察を行っている。主にねじのユーザ企業やねじの関連企業の工場を視察し各国の経済や産業事情に関する知見を深めている。また、視察に合わせて現地の文化遺産や遺跡等を訪問し、参加者同士の交流を深める機会となっている。

渡航先一覧

年度	視察先国名	詳細
１６	アメリカ合衆国	ラスベガス・ファスナーショー
１７	ベトナム	ベトナム国際工業展 VSIP 工業団地 タカコベトナム社 ホーチミン工科大学
１８	ドイツ・チェコ	TPCA 社（トヨタ・プジョー・シトロエン・オートモービル） メルセデスベンツ工場 フックス社
１９	アメリカ合衆国	マサチューセッツ工科大学 ハーバード大学 米国トヨタ自動車工場
２０	イタリア	AGRATI　GROUP　社（ねじメーカー） ヴェニス、フィレンツェ観光
２１	タイ シンガポール	KOBAYU THAILAND 社（ねじ商社） CHAZAO PAO 社（台湾伸線メーカー）
２２	メキシコ アメリカ西海岸	フォルクスワーゲン工場 テオティワカン等の世界遺産観光
２３	スペイン	マドリッド JETRO での講演会 マドリッド、バルセロナ、トレド訪問

地図で見る海外視察先



アメリカ合衆国　トヨタ

ドイツ　メルセデス・ベンツ

ベトナム　タカコ

メキシコ　フォルクスワーゲン

福利厚生委員会

活動方針	構成会員の従業員並びに家族を対象とした福利厚生の充実を目指す
事業内容	・親睦ボウリング大会 ・日帰りグルメツアー ・家庭常備薬、カーリース、各種保険の斡旋
委員長沿革	創立～　　久保　清一 平成１８年度～　　夏原　和哉

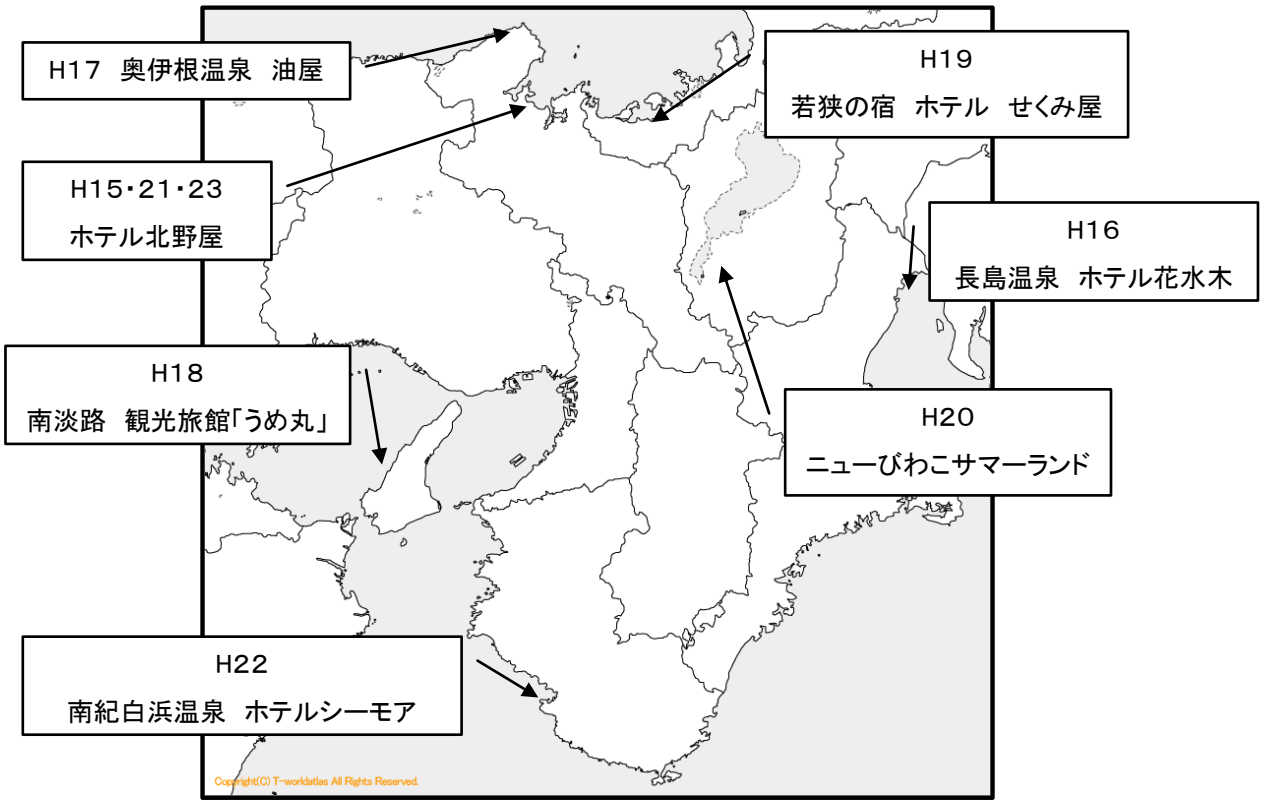
福利厚生委員会は「親睦ボウリング大会」「日帰りグルメツアー」を主な事業として活動している。親睦ボウリング大会、日帰りグルメツアーともに毎年１３０名を越える参加者を向かえ、組合事業の中でも人気の高い事業である。

親睦ボウリング大会では成績上位から飛び賞まで多くの景品が用意されておりリピーターの参加者も多く、また、日帰りグルメツアーは豪華な食事に加えてバス車中でのビンゴゲームも景品を目指して楽しむなど参加者の人気が高い理由でもある。

親睦ボウリング大会　団体戦　優勝企業

回	企業名	回	企業名
1	株式会社丸エム製作所	6	紀州ファスナー工業株式会社
2	ケーエム精工株式会社	7	株式会社丸エム製作所
3	鹿児島金属株式会社	8	株式会社ダイロック
4	日産ネジ株式会社	9	ケーエム精工株式会社
5	株式会社丸エム製作所	１０	ケーエム精工株式会社

地図で見るグルメツアー訪問先



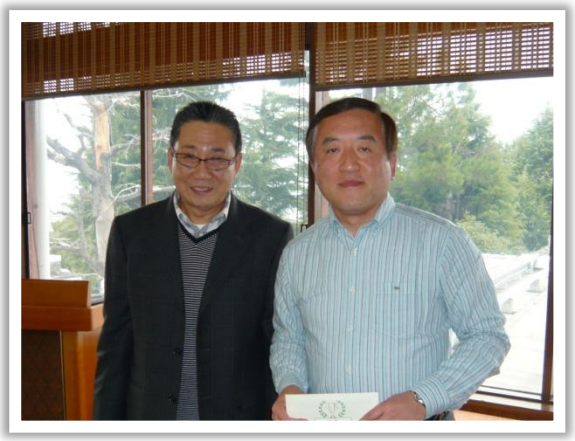
会員交流委員会

活動方針	ゴルフコンペを開催し、構成会員相互の親睦交流を深めることを目指す	
事業内容	・親睦ゴルフコンペの開催 ・囲碁倶楽部の開催	
委員長沿革	創立～	木本　寿夫
	平成１８年度～	木村　繁雄
	平成２３年度～	今井　敏雄

会員交流委員会は年２回の親睦ゴルフコンペの実施と囲碁倶楽部の定例開催が主な活動である。ゴルフコンペはこれまで１９回開催するに至り、企業役員層を中心とする参加者で情報交換の分野でも貢献してきた。　また、平成１９年から囲碁倶楽部が委員会内に新設され新たな交流の輪を広げる場となっている。

ゴルフコンペ優勝者

回	優勝者	開催地	回	優勝者	開催地
1	江本　清吉	泉ヶ丘 CC	１１	田島　祥一	GC 四條畷
2	小林　裕吉	ザ・パークヒル GC	１２	田島　祥一	泉ヶ丘 CC
3	木本　寿夫	太子 CC	１３	堤　親朗	パインレーク GC
4	岡井　靖洋	花吉野 CC	１４	田中　良太郎	GC 四條畷
5	梅林　衛	太平洋 CC	１５	上田　健	GC 四條畷
6	樫本　隆之	秋津原 GC	１６	福田　壮吉	万壽 GC
7	江本　清吉	聖丘 CC	１７	北角　尚弘	GC 四條畷
8	岡井　靖洋	城陽 CC	１８	樫本　隆之	枚方 CC
9	田島　祥一	GC 四條畷	１９	山川　佳秀	関西 GC
１０	三木　年正	GC 四條畷			



人材開発委員会

活動方針	人材の高度化、新人材の採用等の課題に取り組む	
事業内容	・技能講習会 ・従業員対象の講習会や研修会 ・経営者対象の講演会 ・工場見学会	
委員長沿革	創立～	北井　啓之［当時は経営革新委員会］
	平成１５年度～	北井　啓之［当時は人材確保検討委員会］
	平成１８年度～	中江　良一
	平成２０年度～	豊田　裕司
	平成２２年度～	由良　宜彦

人材開発委員会の前身は設立当初の「経営革新委員会」である。その後、人材確保推進事業に取り組むため、人材確保検討委員会に改組した。３年に渡る同事業が終了した平成１８年に現在の人事開発委員会として活動を継続している。同委員会での「技能検定制度」に関する取り組みが礎となり「資格制度委員会」の立ち上げにつながった。

人材開発委員会では、人材の高度化を目的として各種講習会・研修会・講演会・工場見学会など多彩な事業を毎年積極的に行なっている。

広報委員会

活動方針	機関誌「結」の定期発刊を行い情報発信・提供を行う	
事業内容	・機関誌「結」の発刊	
委員長沿革	創立～	中谷　　格
	平成１８年度～	今井　敏雄
	平成２０年度～	樫本　宏志

広報委員会は、組合事業活動を組合内外に広く情報発信するための機関誌「結」を年２回定期発刊することが主な活動である。　平成２４年末までに通算 23 号を発刊した。

「結」という名称は、世界遺産に登録されている岐阜県白川郷の合掌家屋での共同作業「結（ゆい）」に因み取られている。関西の５つのねじ団体が合併発足した関西ねじ協同組合が強い絆で結ばれる願いが込められている。

また委員自らが会員企業に足を運び取材するなど、原稿執筆から編集までの作業を創立当初から継続して行い、紹介企業は６７社を数えている。

組合企業紹介　掲載企業

掲載号	企　業　名
２	西精工㈱、㈱ヒラノファステック、原鉄工㈱、檜山崎精螺㈱
４	日産ネジ㈱、㈱丸ユム製作所、梅鉢鋼業㈱　小倉工場、㈱中島田鉄工所
５	㈱ナツハラ、日本パワーファスニング㈱、㈱巴製作所、㈱オーアンドケー
６	大洋ナット工業㈱、ケーエム精工㈱、㈱三和鋲螺製作所、大阪精工㈱
７	日東精工㈱、ロックファスナー㈱
８	㈱朝日押捻子製作所、池田金属㈱、金剛鋲螺㈱、㈱アルミネ
９	㈱ダイロック、㈱白天製作所、松本ナット工業㈱、タケダツール㈱
１０	鹿児島金属㈱、フジテック㈱
１１	紀州ファスナー工業㈱、㈱富士製作所、三喜鋲螺㈱、田中熱工㈱
１２	㈱アルテス、日本ファスナー工業、サカモト工業㈱、㈱信光ステンレス
１３	㈱フセラシ、㈲東京タッピングマシン製作所
１４	㈱神山鉄工所、㈱野村工具製作所
１５	㈱オーピージ、㈱テクニス、旭サナック㈱、㈱三明製作所
１６	㈱コクブ、㈱粉室製作所、㈲アールケイ興産
１７	光精工㈱、㈱丸菱ナット製作所、北角紙器㈱
１８	㈱江浦製作所、㈲サカエ製鋲所、東和工業㈱
１９	嘉亀鋼業㈱、㈱ヨット印・ダイワ、日高鉄工㈱
２０	日本鋲螺㈱、㈱ヤマヒロ、日之出金属熱錬㈱
２１	高越鋼業㈱、マツダ㈱、サカイ工機㈱
２２	㈲三協鉄工所、東洋ナット㈱、㈱大和螺子製作所
２３	㈲浜岡鍍金工業所、㈱小畠鉄工所

結（ゆい）第23号

第10回通常総会を開催

IT 活用委員会

活動方針	インターネットを活用した組合の広報活動を行う
事業内容	・組合ホームページの運営、管理 ・組合所属企業情報コンテンツの充実 ・ネット媒体の活用方法の研究
委員長沿革	平成２０年度～　　勝亦　良彰（当時は IT 活用研究会） 平成２２年度～　　川端　康弘

IT 活用委員会は組合活動の広報をインターネットという媒体を通して行なっている。

組合ウェブサイト(www.kansaineji.com)の運営管理が主な活動内容である。

関西ねじ協同組合は設立初期から組合ウェブサイトを保有し、積極的にインターネットでの広報活動に取り組んできた。しかし、インターネットの普及拡大に伴い２００８年に IT 活用研究会がスタート、２０１２年度には委員会へ格上げされより積極的な活動へ前進している。なお、本年はウェブサイトの全面リニューアルに着手した。

2003 年

設立当時のウェブサイト

2006 年

第一回リニューアル時のウェブサイト

2013 年

全面リニューアル！

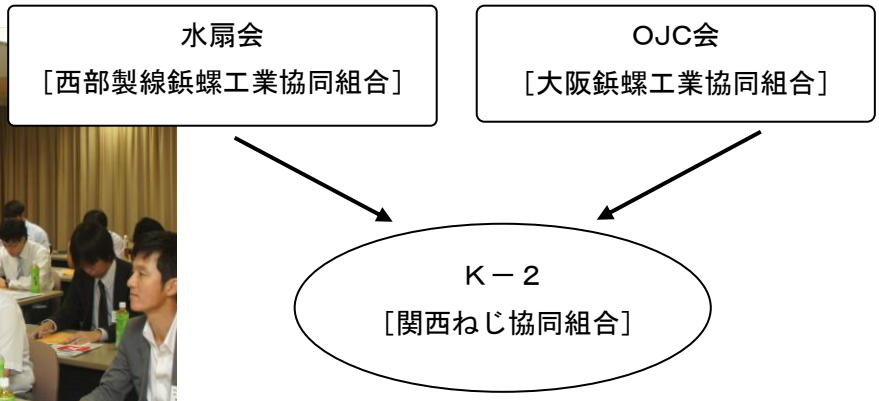
Ｋ－２（関西ねじ２世会）

活動方針	２世経営者に必要な資質・知識を養成・修得することを目指す	
事業内容	・総会、勉強会、二会合同研修会、忘年会、旅行会の開催	
代表幹事沿革	平成１６年度［K-2 会創立］	松田　英成
	平成１７年度	山川　佳秀
	平成１８年度	山下　貴嗣
	平成１９年度	北井　啓之
	平成２０年度	平田　政弘
	平成２１年度	柳原　考至
	平成２２年度	松本　典丈
	平成２３年度	豊田　裕司
	平成２４年度	佐伯　祐二

「Ｋ－２」は、関西ねじ協同組合設立後に在阪ねじ団体の青年部である西部製線鋲螺工業協同組合「水扇会」、大阪鋲螺工業協同組合「ＯＪＣ会」が統合するとともに、ねじ商社の若手組織「ＯＳ会」の一部メンバーが参加して設立された。会の趣旨に沿い４５歳を迎えると自動的に卒業となることが特徴である。

当初４８名でスタートし、現在（平成２５年１月）は６０名を数えるまでに会員増強している。勉強会や忘年会などを通して会員相互の交流を深めるとともにＯＳ会と合同の研修会も毎年行われ、２世経営者が自己研鑽と人脈を広げる機会として大きな成果を果たしている。

写真：K-2 勉強会の様子

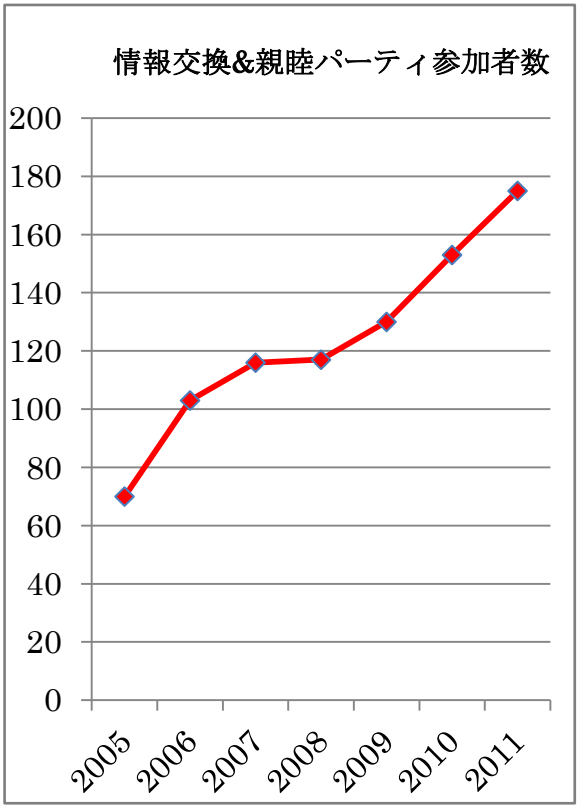


Ｋ－２の設立記念式典は、平成１６年年１０月８日、大阪市天王寺区ホテルアウィーナ大阪で設立記念式典が総勢９３名の参加者で執り行われました。

ねじづくりサポート会

（旧賛助会分科会）

活動方針	組合員企業との交流により相互の発展・進化の機会を目指す	
事業内容	・組合員との情報交換&親睦パーティ ・技術展示会	
会長沿革	平成１５年度	澤田　　斉
	平成１８年度	田中　良典
	平成２２年度	坂元　正樹

関西ねじ協同組合の設立後まもなく、初代理事長会長田島祥一氏を中心とする理事会から「ねじ等の製造を行う正会員の両輪と位置付けるべき存在として、技術・製造等の領域から情報ＰＲを行う組織」として分科会の設立が呼びかけられた。これを受け、当時の賛助会員有志企業による「賛助会員分科会」が発足した。平成２４年５月には会の趣旨を一層正確に反映させるため「ねじづくりサポート会」へ名称変更を行った。現在２９社で構成されている。

会の主な事業は毎年１２月に行う情報交換&親睦パーティと隔年開催の技術展示会である。情報交換&親睦パーティは平成１７年に参加者７０名で始まったが２０１２年には１７０名を超える盛況なイベントとなっている。また、技術展示会も新技術・新商品の情報発信の場として貴重なイベントとなり組合に大きく貢献している。